

道徳学習指導案

指導者 植木 雅子

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 4 学年 1 組 25 名 [4 年 1 組教室]
- 3 主 題 名 明るいい心で [1 - (4) 正直誠実, 明朗]
- 4 資 料 名 「ひびが入った水そう」(出典「ゆたかな心で」東京書籍) 一部改作

5 主題設定の理由

○ 毎日を明るいい心で元気よく過ごすには、自分自身に正直であることの心地よさがわかり、真面目に嘘やごまかしでなく、友達とよりよい人間関係を築いていこうとする態度が大切である。一方で、過ちや失敗はだれにでも起こりうることである。そのときの自己保身的なうそやごまかしは、あくまでも一時しのぎ的なものであり、真の解決には至らず、他者の信頼を失うどころか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それを乗り越えるためには、児童が自分でやったことの意味を考え、周囲の人たちの信頼を得て、伸び伸びと生活する必要がある。この時期において、過ちを改めて正直に明るく過ごすことの気持ちの内面化を図りながら、明るく誠実に生活しようとする態度を養うことが重要である。

○ 本学級の児童は、友達との間にトラブルが起きたときには、お互いに話し合っけきちんと謝ることができる場合が多い。しかし、素直になれず、謝ることのできにくい児童もいる。そこで、素直に謝れない理由を聞いてみたところ、「自分も悪かったけれど、相手の方が自分よりも悪かったから謝りたくなかった」「自分は悪くないと思ったから謝らなかった」というような自分本位な考え方をしていることがわかった。また、学級の花瓶をこわしてしまったらどうするか、アンケートをとってみると、『正直に言う』『ちゃんと謝る』と答えた児童は、80% (20 人/25 人)、『正直に言えないかもしれない』と答えた児童は、20% (5 人/25 人) であった。「正直に言う」「ちゃんと謝る」と答えた理由としては、「学級の花瓶だから」「正直に言わなかったらみんながいやな思いをするから」という理由が多かった。しかし、中には、「そう言ったことがないのでよくわからないけど、正直に言うと思う」と答えた児童もいた。また、「正直に言えないかもしれない」と答えた理由としては、全員「叱られるのがいやだから」ということだった。

このことから、児童の多くは、失敗や過ちをごまかさず、正直に言うことが大切であることは理解している。しかし、正直であることでの心地よさを改めて感じた経験が少ないために深く考えることができず、特に後悔や自責の念を持つことなく過ごしてきた児童もいると考える。また、正直に言ったことで叱られたことはあっても、正直に言ってよかったという思いをした経験が少ない児童もおり、素直に謝ることができにくくなっていると考えられる。

○ 本資料は、生き物係のけん太が、カメの水槽を洗っていてひびを入れてしまい、これくらいのひびならだまっても大丈夫だという思いと水がもれて大変だから正直に言おうという思いで葛藤し、暗い気持ちになるが、先生に話すことで明るい気持ちになれたという内容である。

指導に当たっては、自分が今までに家や学校などで失敗してしまった経験を想起させ、カメの水槽にひびを入れてしまい葛藤するけん太の気持ちに共感させながら学習を展開する。わざとしたことではなく、よくある失敗であることから、似たような思いをしたことのある児童も多く共

感じやすいと考える。基本発問では、水槽にひびが入ったことを知ったときのけん太の気持ちを考えさせ、始めは、だまって知らないふりをしておけば大丈夫だという安易な気持ちでいたことをつかませる。次の発問では、次の日、登校して水槽のひびを見たとき、主人公がどんな気持ちになったのかをワークシートに書かせて話合いをする。話合いでは、「いつまでもこのままではいけない。正直に話して水槽をなんとかしたい」「いつかわかってしまうことだから、後で後悔するよりも今言ってスッキリした方がよい」など、正直に話すことで後悔しなくて済むようにしようとする主人公の気持ちが表現できるようにしていく。そして、展開前段の後半では、あんなに暗かった気持ちがずっと明るくなったのはなぜかを考えさせることを通して、明るく正直でいることのよさを実感している主人公の気持ちの変容に気付かせたい。展開後段では、正直にできてよかった経験について出し合い、教師が児童の正直で素直な行為を認めるような受けとめ方をする。ことで、正直にすることのよさを感じ取らせたい。終末では、教師の体験談として、正直にできずに暗い気持ちになったが、考えた後、自分をごまかさないで正直に打ち明けて謝ったことを先生に認めてもらい、その後、明るい気持ちで自信を持って生活できるようになったという話をし、児童が共感できるようにする。

6 準備物

ワークシート、場面絵、主人公の表情と気持ちを表す掲示

7 ねらい

- 暗かった気持ちがずっと明るくなったときのけん太の心情を話し合うことを通して、過ちは素直に改め、正直に明るい心で過ごそうとする道徳的心情を育てる。

8 本時のポイント

始めはひびが入っただけだから大丈夫だと思っていたけん太の気持ちがだんだんと変化していく様子を心苦しみの大きさを表し、葛藤するけん太の気持ちをとらえさせる。

また、次の日、登校して水槽のひびを見たけん太がどんな気持ちになったのかを一人一人に考えさせるために、ワークシートを用いて主人公の心の中の言葉を書かせて話し合わせる。そして、最終的に、自分から先生に正直に伝えられたことで、初めて気持ちが明るくなったことに気づかせていく。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 今までに失敗してしまっ経験について振り返る。	○家や学校でなにか失敗してしまったことがありますか。 ・廊下を走ってしまって注意を受けた。 ・友達とぶつかって、友達にけがをさせた。	○ 失敗してしまっ経験を振り返らせることで、資料への導入とする。
展開前段	2 水槽にひびが入ってからのけん太の気持ちを考える。	○水槽にひびが入ったことを知った後、けん太はどんなことを考えていたでしょうか。 ・ひびを後ろに向けたから、気付かれないう。	○ 黙って知らないふりをしているうちに、心苦しい気持ちが大きくなっていく主人公の気持ちに共感させる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・かずき君は、僕が水そうの掃除をしたことを知っているから、ひびのことに気がつくかもしれない。 ・水がもれたらカメがかわいそうだ。正直に話した方がよいかな。 ・水がもれたらカメがかわいそうだ。正直に話した方がよいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公の不安な気持ちが大きくなっていく様子が視覚的にわかるように板書する。
展開前段	<p>3 次の日、水槽のひびを見ているときのけん太の気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次の日、水槽のひびをじっと見つめながら、けん太はどんなことを考えたのでしょうか。 ・ 叱られるかもしれないけど、ぼくがやってしまったことだから先生に正直に話そう。 ・ 後で誰かから言われて後悔するよりも、自分から言ってすっきりした方がいい。 ・ 水槽の水がなくなってしまうとカシオペヤがかわいそうだ。カメのためにも先生に話して水槽をなんとかしてもらおう。 ・ ぼくのせいで、かずき君が疑われたら迷惑をかけてしまう。早くひびの入った水槽をなんとかしなくては。 ・ みんなで飼っているカメなのに、このままにしておく、みんなの信頼を失ってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに書かせ、自分の思いを明確にさせる。 ○ 全体の話し合いでは、出された意見を整理し、正直に話すことで後悔しなくて済むようにしようとする主人公の気持ちが深められるようにする。 ○ 理由づけができにくいときは、補助発問をして、児童の考えをより明確にさせるようにする。
	<p>4 暗かった気持ちがずっと明るくなったときのけん太の気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あんなに暗かったぼくの気持ちがずっと明るくなったのは、なぜでしょう。 ・ 先生に正直に言ったことで、気持ちがずっとしたから。 ・ 悩んでいたことが解決して、もやもやが晴れたから。 ・ 先生がいっしょに水槽を直してくれて、カメもこれで大丈夫だと思い、ほっとしたから。 ・ 勇気を出して先生に話したら、「話してくれてうれしい。」と言われたから。 ・ 先生に「うれしい。」と言われて、正直に話すことのよさを感じるようになったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごまかさず、正直に言うことができたことで、明るく正直でいることのよさを実感している主人公の気持ちをとらえるようにする。 ○ 考えにくい場合は、補助発問をして、けん太の気持ちがはじめのころとはどのように変化してきたかを思い出させる。
展開後段	<p>5 これまでの自分の生活を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 失敗をしたとき、ごまかしたりせず、正直にできてよかったなと思ったことがありますか。 ・ 皿を割ってしまったとき、すぐには言えなかったけど、正直に話したら気持ちが軽くなってよかった。 ・ ボールを木の上に上げてしまったとき、正直に言ったら取ってもらえたのでよかった。 ・ ぶつかってしまったとき、素直に謝ることが 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の正直で素直な行為を認めるような受けとめ方をする。 ○ 事前の実態調査をしておき、意図的に指名できるようにする。

		<p>できたのでお互いに気持ちよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 忘れ物をしてしまったとき，先生に正直に話してこれからどうするかを言ったら，わかってもらえた。 	<p>○ ワークシートに「他者視点」「自己モニター」を意識して，本時の振り返りを書く。</p>
終末	6 教師の説話を聞く。		<p>○ 勇気を出して自分をごまかさないようにしたら，先生に認めてもらい，明るく自信をもって生活できるようになった体験談を聞かせ，児童に正直に明るく過ごそうとする気持ちを持たせる。</p>